

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	樋口 善幸	学校名	東京都 羽村市立武蔵野小学校
担当教科等	音楽科	対象学年（人数）	4年 3組（28名）
実践年月日もしくは期間（時数）	令和3年 1月（4時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：音楽科		
2. 題材(活動)名：「ちいきに伝わる音楽に親しもう」		
3. 授業テーマ（タイトル）と題材目標 授業テーマ：「児童が『Think Globally Act Locally』するための カリキュラム・マネジメント&授業づくり」 題材目標： - 日本の民謡や地域に伝わる音楽の歌声や楽器の音色、旋律と曲想との関わりについて気付く。 (知識及び技能) - 音色や旋律の特徴が生み出す曲や演奏のよさなどを見いだしながら、日本の民謡を味わって聴いたり、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いや意図をもつ。 (思考力、判断力、表現力等) - 日本の民謡の特徴やよさを味わって聴いたり、地域に伝わる音楽を調べたりして、日本の民謡や地域に伝わる音楽への興味・関心を高める。 (学びに向かう力、人間性等) 関連する学習指導要領上の目標： A表現（1）ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。 B鑑賞（1）ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。 共通事項（1）ア 表現及び鑑賞の指導を通して、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考える力を身に付けること。		
4. 単元の評価 規準	①知識・技能	・歌声や楽器の音色、旋律などによる日本の音楽の特徴と曲想と関わりについて気付いている。
	②思考力・判断力・ 表現力	・音色や旋律の特徴などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、日本の音楽を味わって聴いている。 ・旋律や音色の特徴などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いや意図をもっている。
	③主体的に学習に取り 組む態度	・音色や旋律の特徴などによる演奏のよさなどを見いだしながら聴く学習に進んで取り組もうとしている。 ・民謡の特徴やよさを味わって聴いたり、地域に伝わる音楽を調べたりして、地域に伝わる郷土の音楽への関心を高める学習に取り組み、自己の考えや学び方を調整しようとしている。

5. 題材設定の理由・題材の意義 (児童観、教材観、指導観)	【題材設定の理由】 教師海外研修においては、「SDGsの本質」について、多面的な角度から学ぶことができた。2030年の未来を、「ありたい社会」に変えていくためには、未来の担い手である児童が「持続可能な社会の創り手に必要な力」を身に付けていくことが必要だと学んだ。その力を身に付けるためには、私は、子供が対象となる「ひと・もの・できごと」の本質を見極め、自分がどう関わっていくか・自分の行動をどう変えていくかを考え続けることが大切であると考えた。 研修の中で、パラグアイのスラム街に住む子供たちに、ゴミからリサイクルした楽器を与え音楽教育を行ったという「ランドフィルハーモニック」の事例に出会った。「ランドフィルハーモニック」は、創設者のファビオ・チャベス氏が、「子供たちを変えたい」「社会を変えたい」という思いをつないで・広げて、現在も活動を継続している。 そこで、本題材においては、地域で生まれ、人々がつないできた「地域に伝わる音楽」を取り上げることとした。「ランドフィルハーモニック」と同様に、音楽を伝え続けていくためには、地域に住む人々の思いや努力が必要であると考えた。また、集団で1つの音楽をつくり上げるうえで、地域の人々とつながりが生まれるとともに、同じ音楽を演奏してきた先人の思いとも対話することができる。このような音楽の意義を児童が深く考えるようにすることで、児童が、自分と音楽・地域との関わり方について見直したり、音楽のもつ価値を捉え直したりすることをねらい、本題材を設定した。 【題材の意義】ESDを基軸としたカリキュラム・マネジメントの実施 本校では、今年度「主体的・対話的で深い学びの充実に向けた授業の創造～新しい教育を学ぶ『情報教育・教科教育・グローバル教育』を通して～」という主題で、校内研究を行っている。グローバル教育部においては、4年生・総合的な学習の時間「20才の私たちへのメッセージ」という単元を実施した。この単元は、「海洋問題等の環境課題に対して関心をもち、様々な視点から解決策を自分なりに見出し、友達と協力しながらより良くするために工夫する」ことをねらいとした。総合的な学習の時間を基軸に、ESDレンズ(UNESCO, 2012)を働かせる場面を組み入れ、教科領域等横断的に資質・能力を育成していくことをねらい、総合的な学習の時間と音楽科とを関連付けて学習指導を行った。本題材においては、総合的な学習の時間で働かせた「つながるレンズ(統合的レンズ)」を活用し、「地域に伝わる音楽を学ぶ」ことが、どのような意味をもち、どのようにつながっていくかを考えることができるよう、計画した。このように、他教科で身に付けた資質・能力を本題材において活用し、本題材を通して身に付けた力を他教科で発揮するという、双方向型の指導を行うことができるという点に、本題材およびESDを基軸としたカリキュラム・マネジメントの意義があると考えた。 【児童観】 本学級においては、どの題材・領域の学習に対しても意欲的に取り組む児童が多い。授業の中では、自分の考えを自分の言葉で発言する場面や、何度も歌い方や演奏の仕方を試行錯誤して、よりよい音楽をつくろうとする場面が見られる。また、特に意欲的に学習に取り組む児童からは、気付いたことや感じたことを、音色・強弱・速度等といった「音楽のもと」の視点から分析し、根拠をもって説明しようとする姿も見られる。 一方、羽村市に住む子供たちにとって、伝統的な音楽は生活の身近な場面にあるものではない、という実態がある。自分たちの身近にはないものを学習対象とする際、学習に対して・教師に対して素直に反応する本学級の児童は、「教師が求めているであろう」方向から自分の考えを発言したり、「正解であろう答え」を述べたりしようと考えられる。このような実態から、児童が本題材において主体的に課題を設定することや、自分の考えを広げたり深めたりすることが難しいことが予想される。 【指導観】 本題材は、児童が、日本の民謡や地域に伝わる音楽に触れ、その背景にある思いや願いを考える学習を通して、地域に伝わる音楽への興味・関心を高めるとともに、音楽を未来へ受け継いでいくこと・音楽を学び続けていくことの意味を考えることをねらいとしている。 第1次では、パラグアイの「ランドフィルハーモニック」について学び、貧困の連鎖に苦しんでいる人々を変えたいという、設立者の音楽教師の思いを感じ取ることで、「0からなにかをつくること」「続けていくこと」の意義について、児童が自分なりの思いをもつことができるようにする。その後、一度消滅の危機に瀕しながらも、人々の想いで受け継がれ、今日では全国的に有名になった「こきりこ節」の鑑賞を行う。体験活動を組み入れた鑑賞の学習を通して、日本の楽器の音色や民謡の発声方法、五線譜によらない記譜方法等に興味・関心をもつことができるようにする。また、保存会の人々の話を聴くことで、「こきりこ節」を受け継いできた背景に触れ、地域に伝わる音楽を受け継いでいくことの大切さや難しさについて捉え直し、自分の考えを調整するようにする。
---	---

第2次では、地域に伝わる音楽を、日常の一部として捉え自然に関わっている八丈島の子供たちの「八丈太鼓」の演奏を鑑賞する場面を設ける。「こきりこ節」「八丈太鼓」を比較鑑賞し、「地域に伝わる音楽を学び続けるよさは何か」という問いを入りに、思考ツールを使って考えを可視化するようにする。よさについて「人々の思いを受け継いでいける」「いろんな人とつながることができる」「思いを一つにすることができる」「努力して、自分自身が成長できる」等と整理することで、児童が地域に伝わる音楽を受け継いでいくことの本質を捉えることができるようにする。また、これらの学びは、「地域に伝わる音楽」を通してのみ得られるものではなく、現在児童自身が関わっているコミュニティの中でも学ぶことができることに気付かせる。そこから自分たちが今できることは何か・これから何をしていきたいかを考えるようにし、「今できることから行動し、将来地球規模の課題を解決する力を身に付ける」Think Globally Act Locallyの「種を蒔く」題材とする。				
6. 題材指導計画（全4時間）				
時	テーマ	学習のねらい	学習活動 ★評価【評価の観点および評価方法】	資料など
1	チャベスさんは、どのような思いで楽団をつくったのかを考えよう	日本の民謡や地域に伝わる音楽への興味・関心を高める。	・「Landfillharmonic」が演奏する、「アイネクライネナハトムジーク」を聴く。 ・パラグアイについて知り、「Landfilharmonic」の演奏および、設立者のファビオ・チャベス氏の話聴く。 ・チャベス氏が、なぜ、カテウラで、ゴミからできた楽器を使ったオーケストラを設立したのかを考える。 ★地域に伝わる郷土の音楽への関心を高める学習にすすんで取り組み、「何もないところからつくり上げる」「つくったものがゼロになってしまうこと」について、自分なりの考えをもとうとしている。【主 発言】	・ Landfillharmonic の演奏 DVD ・ 絵本「スラムにひびくバイオリン」 ・ パラグアイ イグアス移住地の生活（スライド）
2	音色や音の重なり注目して、こきりこ節を聴こう	「こきりこ節」を鑑賞したり体験したりする活動を通して、音色や旋律の特徴が生み出す曲や演奏のよさなどを見いだしながら、日本の郷土の音楽を味わって聴く。	・「こきりこ節」の鑑賞用 CD の模範演奏を聴き、主な旋律に親しむ。 ・範唱を聴き、歌い方の特徴を感じ取るとともに、五線譜によらない記譜方法に親しむ。 ・主な旋律の歌い方に親しみ、伴奏に合わせて歌う。 ・体験学習を通して、「こきりこ節」に使われている楽器「棒ざさら」「こきりこ」に関心をもつ。 ・「越中五箇山こきりこ唄保存会」の話聴く。 ★歌声や楽器の音色、旋律などによる日本の音楽の特徴と曲想との関わりについて気付いている。 【技 発言・体験の様子】 ★音色や旋律の特徴などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、日本の民謡を味わって聴いている。 【思 発言、ワークシート】	・「こきりこ節」演奏の様子（動画） ・棒ざさら・びんざさら（実物楽器） ・「越中五箇山こきりこ唄保存会」の話（動画）
3 本時	八丈太鼓を聴いて、「地域に伝わる音楽を学び続けるよさ」を考えよう	「八丈太鼓」の演奏や、演奏者の話を聴いたり、友達と話し合ったりする活動を通して、地域に伝わる音楽を学び、続けていくことのよさを自分なりに考える。	・「八丈太鼓」の演奏を聴いたり、「月曜会」に所属する小学生が太鼓を打つ映像を見たりする。 ・郷土につたわる音楽を学び、続けていくことのよさを考え、友達と話し合う。 ★民謡の特徴やよさを味わって聴いたり、地域に伝わる音楽をつないでいる人々の話を聴いたりし、地域に伝わる郷土の音楽への関心を高める学習に取り組み、自己の考えや学び方を調整しようとしている。【主 発言】	・郷土に伝わる音楽が生活とともにあり、幼少の頃から親しんできた八丈島の子供たちの演奏（動画）

4	学習を振り返り、音楽を通して身に付ける力や、その価値を考えよう	地域に伝わる音楽を学び、続けていくことにどのような意味があるのかを話し合い、今の自分たちにできることは何かを考える。	・「地域に伝わる音楽を学び、続けていくことのよさ」について、グループで話し合う。 ・Xチャートやベン図を用いて、「地域に伝わる音楽を学び、続けていくことのよさ」について、「伝統をつなぐ」視点、「地域の人と関わる」視点、「自分自身の成長となる」視点等に分類できることに気付く。 ・まとめた図をもとに、今の自分たちにできること・したいことは何か考える。 ・歌詞の意味を味わって「校歌」・「国歌（君が代）」を歌う。 ★歌詞と音色や旋律との関わりに興味・関心をもち、歌唱する学習に進んで取り組もうとしている。 【主 発言、ワークシート】	・思考ツール ・パラグアイ・アルパ奏者の演奏（伝統楽器を使った、流行曲の演奏）
---	---------------------------------	--	---	--

7. 本時の展開（全4時間中の3時間目） 本時のねらい：「八丈太鼓」の演奏や、演奏者の話を聴いたり、友達と話し合ったりする活動を通して、地域に伝わる音楽を学び、続けていくことのよさを自分なりに考える。【主体的に学習に取り組む態度】			
過程・時間	○学習内容 ・学習活動 T 発問 C 予想される児童の反応	◆留意点	資料（教材）
導入 5分	・前時の、「越中五箇山こきりこ唄保存会」の人の話をもとに、五箇山の人々が、どのような思いで「こきりこ節」をつないでできたのか、話し合いで出た意見を振り返る。 【都会からお嫁に来て、「こきりこ」を踊っている人の話】 「住むなら踊る、それが当たり前なんです。踊りは楽しいですよ。全国でここにしかない踊りを踊れるって、誇らしいです。」 【ふだんは都会にいて、お祭りのときに帰ってくる人の話】 「古いスタイルの踊りや、即興でつくったという唄。古典的で素朴で、「ほんもの」っていうのがみりよくです。」 C: 「こきりこ」は、楽しいけど難しい。私は体験でうまくできなくて、くやしくて、だからやりたいと思った。昔の人も同じ気持ちだったのではないかなと思う。 C: なくなると、もう1から作れないから、つなごうとしたのだと思う。 T: みなさんが、もし五箇山に生まれていたら、「こきりこ節」について、どう感じていたでしょうか。 C: 大人と一緒に祭りとかでやるのは、楽しそう。 C: でも、練習が大変そうだ。やらなきゃいけないから。	◆前時の児童の意見を、まとめて板書しておき、学習の振り返りを行うことができるようにする。	「越中五箇山こきりこ唄保存会」の人の話（教育芸術社・4年授業参考資料DVD）
展開 20分	【学習問題】 私たちが、ちいきにつたわる音楽を学び、続けていくよさって？ ○「八丈太鼓」の鑑賞・体験および、演奏者の話を聴くことで、五箇山や八丈島の人たちは、どのような思いで地域に伝わる音楽を学んでいるのかを考える。 ・「八丈太鼓」の演奏を聴き、気付いたことを話し合う。 C: 2人で太鼓を打っている。	◆「リズム」「強弱」「音の重なり」等、これまでの題材で学んだ視点から考えるよう	

まとめ 20分	C：拍にのって、同じリズムを反復している。 C：力強い演奏。 C：なんだか踊っているような気分になる。 C：聴いていると、うれしい気分になる。 ・前時に引き続き、長胴太鼓を使って、「八丈太鼓」を体験したり、友達の演奏を聴いたりする。 ・前時・本時で行った「八丈太鼓」の体験を振り返り、気付いたことや感じたことを話し合う。 C：「自由に打つ」って難しいけど、楽しい。 C：先生と合わせるのが、難しかった。 C：もっとやってみたい。 ・再度、映像付きで、「八丈太鼓月曜会」の演奏を映像付きで聴く。 C：自分たちの打ち方と全然ちがって、びっくりした。 C：小学生が堂々と打っていて、すごい。 C：さっき「かっこいい」と思って聴いた演奏が、同じ年の子がやったものだったなんて、びっくり。 ・「八丈太鼓月曜会」に所属する児童の話を聴き、地域に伝わる音楽を学ぶこと・つなげていくことのよさについて考える 「おばあちゃんが、八丈太鼓をやっていて、それで（太鼓を）始めました。」 「相手と同じ速さで、同じリズムはなるべく使わないようにしています。」 「例会で、下拍子も上拍子も、かっこよくできるようにしたいです。」 ○「こきりこ」「八丈太鼓」の鑑賞や体験を通し、自分たちが地域に伝わる音楽を学び、続けていくことに、どんなよさがあるのかを考える。 ・個人で自分の考えをまとめ、付箋に記入する。 C：地域の人々の伝統を受け継いでいくことができる。 C：みんなで同じ音楽を演奏できると、楽しい。 C：協力することを学べる。 C：昔の人々や、地域の人々の思いや願いも、歌にのせて伝えていくことができる。 C：なくならない、ということも、良さだと思う。 C：できなくて、くやしい。努力をして、成長できるかもしれない。 C：大人から子供へと音楽を教える中で、地域の大人のひとと仲良くなれるかもしれない。 C：自分たちの音楽を、受け継ぐだけでなく、広めていける。 C：教わった側も、教えた側も嬉しくなる。 C：誰でも参加できるってことは、SDGsの5番や10番がつながりそうだ。 C：続けていくってことで、つくる責任・使う責任にもつながるかもしれない。	に促すことで、児童が音楽を形作っている要素とその効果について考えることができるようにする。 ◆教師は、「下拍子」を担い、児童は即興的に「上拍子」を打つようにする。 ◆総合的な学習の時間で交流する、八丈町立三根小の児童が打っている演奏を聴くことで、児童が「八丈太鼓」をより身近に感じることができるようになる。 ◆次時でチャート上にまとめることができるように、付箋に記入するよう指示する。	「八丈太鼓」を、同じ年の児童が演奏する映像 チャート例示 ベン図 Yチャート Xチャート
--------------------	---	--	--

	○郷土につたわる音楽を学び、続けていくことに、どのような良さがあるのか、自分たちの考えをまとめる。 ・グループで、短冊に書いた内容を交流する。次時で、グループごとにXチャートにまとめて、発表会をすることを知らせる。	◆モデリングすることで、チャートを使って自分たちの考えを仲間分けすることについて、見通しをもつことができるようにする。	SDGs シール
8. 評価規準に基づく本時の評価方法 民謡の特徴やよさを味わって聴いたり、地域に伝わる音楽をつないでいる人々の話を聴いたりする活動を通して、友達や資料との対話を通して、自己の考えを調整しようとしている。【主 発言】			
9. 学習方法及び外部との連携 【学習方法】 ・児童の思考を可視化し、分類したり、関連を見える化するために、思考ツールを活用した。今回は、ベン図、Yチャート、Xチャートの3種類を示した。ベン図を使うことで、児童が、「よさ」どうしの関連を考えることができると考えた。また、XチャートやYチャートを使うことで、児童が、「よさ」を分類することができると考えた。どのチャートを選択しても、分類したり関連を考えたりする必要性があり、必然的にグループにおいて児童が意見を交流するようにした。 【外部との連携】 ・教師海外研修参加者の、八丈町立三根小学校音楽専科の大平教諭と連携し、「八丈太鼓月曜会」に所属している小学生が、八丈太鼓を打つ動画を撮影し、鑑賞教材として用いた。また、澤野教諭と連携し、埼玉県在住のパラグアイ・アルパ奏者が日本の流行曲を演奏する様子の動画を入手し、まとめの場面で用いた。 ・地域に縁のあるパラグアイ在住の方から、パラグアイの生活や人々の考え方についての情報を得た。			
10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組 ・学校外においてESDに関する研修を受け、OJTでプレゼンテーションを行う等し、校内に還元した。また、校内研究を推進し、4年生・総合的な学習の時間の研究授業を軸に、校内の教員がESDに関する実践を積み重ねることができるよう支援した。 ・音楽室前に「10年後の私たちへ」コーナーを設置し、JICAの資料や絵本「スラムにひびくバイオリン（汐文社、スーザン・フッド 作）」「地球温暖化、沈みゆく楽園 ツバル（小学館、山本敏晴 著）」を読むことができるようにしたり、パラグアイおよび「Landfillharmonic」についての資料を展示したりした。			

【自己評価】

11. 苦労した点	・音楽科のねらいを達成させる過程で、ESDを組み入れる必要があった点 - 音楽科のねらいを達成するために、鑑賞の活動を中心に行った。話し合い活動が膨らむにつれ、音楽科の授業とのずれが生じるのではないかと懸念し、指導方法を工夫した。 ・教科横断的に指導を行う上で、担任との共通理解を図る点 - ESDの本質を達成させるためには、教科領域等横断的な指導が必要で、専科教員としては担任との連携が必要である。今回は4年生の担任との協議を密に行った。
12. 改善点	・研究授業のためのカリキュラム・マネジメントではなく、学校全体で効果的にESDを実施していく視点から、ESDカレンダーを作成するようにしていく。 ・ESDの本質を見極め、教科のねらいの達成との両軸に立った指導計画を作成していく。
13. 成果が出た点	・鑑賞時に、実物楽器を使った体験活動を組み入れた結果、児童が主体的に地域に伝わる音楽に関わる姿が見られた。 ・総合的な学習の時間で学んだことや、働かせた見方（ESDレンズ）を活用することができるよう、カリキュラム・マネジメントを行った結果、児童のSDGsとの関連を意識した発言をする姿が見られた。

14. 学びの軌跡（児童の反応、感想文、作文、ノートなど）

① 本題材 2～4 時に記入するようにしたワークシート記述より

私たちが、ちいきにつたわる音楽を学び、続けていくことに、どんなよさがあるのだろうか。

続けていくことであつた音楽になり大人でも子どもでもいっしょにやると仲良くSDGの17番につながりあもしろいから大人も子どもにも人気になって続くと思います。

私たちが、ちいきにつたわる音楽を学び、続けていくことに、どんなよさがあるのだろうか。

昔からあったおどりは、それぞれちがっていて、全国に1つの大切な大切なおどりだし、受けつがれている命のように、昔からその地いきにあるおどりで、みんなの心がつながると思います。

私たちが、ちいきにつたわる音楽を学び、続けていくことに、どんなよさがあるのだろうか。

私たちが大人になっても、ずっと受けつがれると思うから昔から伝わる伝統になる。だから音楽の楽しさも分り昔の人のねがひなどが伝わる。

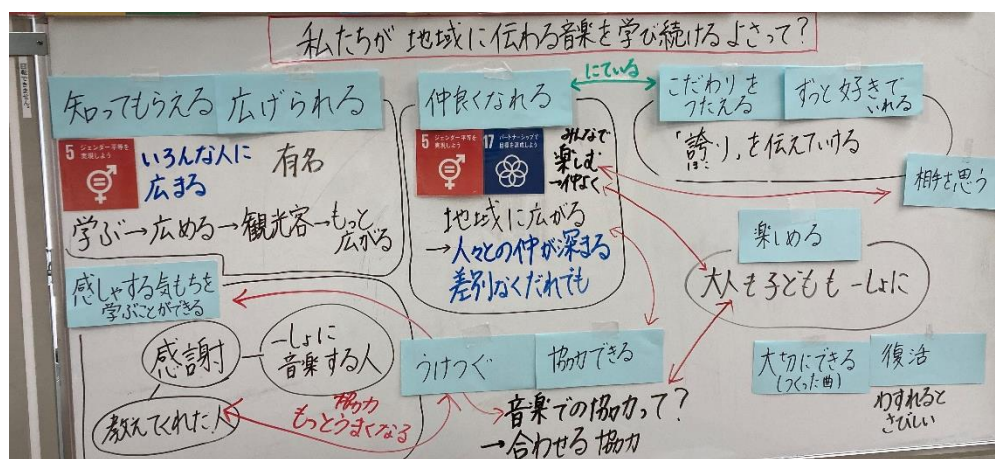
私たちが、ちいきにつたわる音楽を学び、続けていくことに、どんなよさがあるのだろうか。

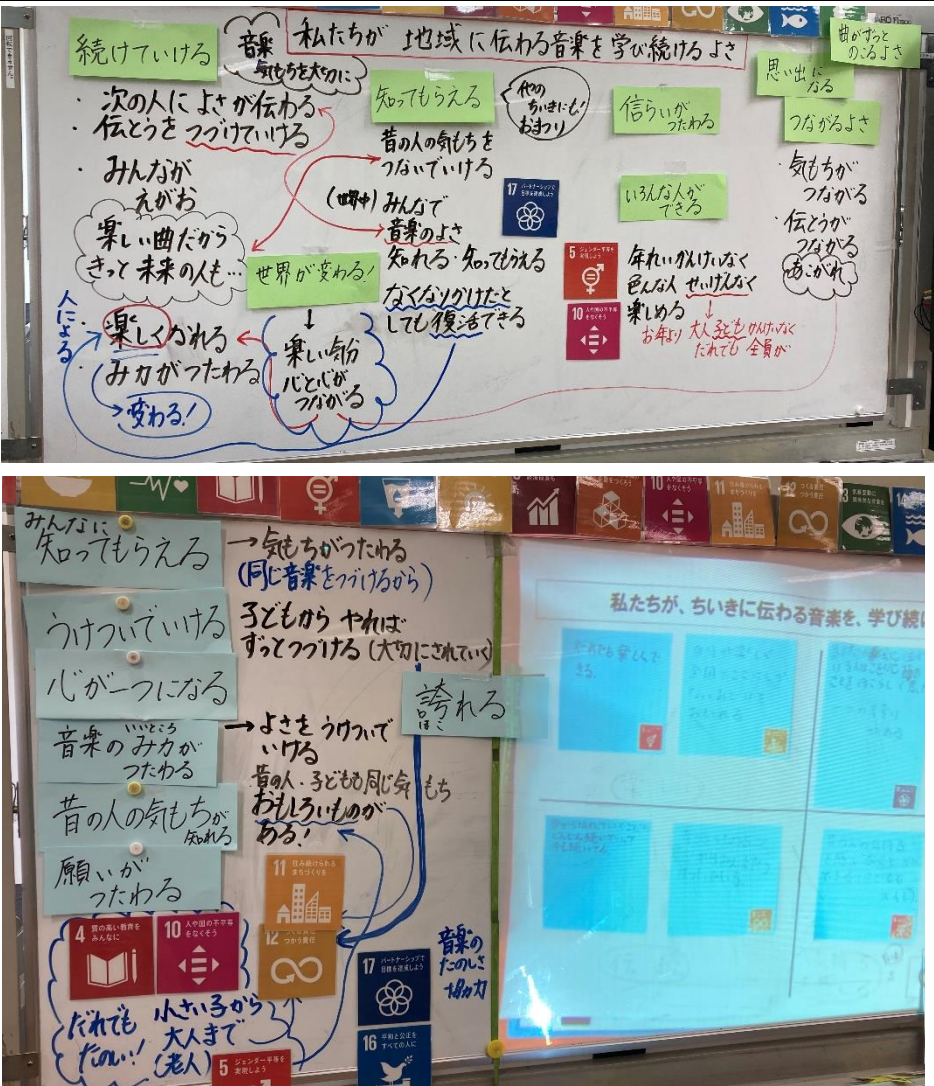
昔のおどりをおどる日をまー年づつけることで作った人のねがひがつたわって昔の人がよろこぶかなと思ひ、つづけていく。相手のことをしかりみてやることで協力という力がみにつく。

私たちが、ちいきにつたわる音楽を学び、続けていくことに、どんなよさがあるのだろうか。

昔のみんながいっしょけんめい作ってくれたから、これを子どもたちに伝えれば子どもも音楽の楽しさが分かる。自分に教えてくれた人もよろこぶし他の人たちに広まるかもしれないから。

② 第4時 板書（※一部抜粋）



	
15. 授業者による自由記述	私は最初、学習指導要領の基盤でもある「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」の育成について、音楽専科として、教科との親和性の観点からかなり難しくとらえていた。ましてや社会や環境の課題である SDGs について、音楽科とどのように結び付くのか、考えることができないでおり、その答えを探すために本研修に参加した。 実践の中で、児童が、民謡や郷土芸能といった、なじみのないものに対して本気で向き合い、思考と思考とを結び付けて考える姿が見られた。さらには、「音楽を学び続けること」と SDGs の目標との関連について自分の考えを話す児童も複数見られた。この姿は、自分が普段通りの題材指導を行っていたら見られなかったものであろう、と感じた。 この経験から、児童がレンズを働かせながら、課題を「自分事」として捉えることが、教科における主体的・対話的で深い学びの出発点となるのではないかと、ということに気付いた。そして、音楽専科教員だから自分のテリトリーの中での ESD の実践は難しい、という考えから、ESD の実践をすることが、教科の学びを豊かにするという考えに変わっていった。本研修に参加した最大の成果は、このように自分自身の「音楽専科」という立場に対しての見方の変容・捉え直しをすることができた、という点である。 今後も、日々の音楽科指導の中で ESD の実践を意識することができるよう、授業改善を図るとともに、学んだことを発信し、職場全体で ESD を推進することができるよう、尽力していく。

【参考文献】

- ・「身近な課題の解決に挑む 未来の授業 私たちのSDGs 探究 BOOK」(宣伝会議)
監修：佐藤真久 編集協力：認定 NPO 法人 ETIC
- ・「スラムにひびくバイオリン」(汐文社) スーザン・フッド 作
- ・「地球温暖化、沈みゆく楽園 ツバル」(小学館) 山本敏晴 著

【参考 Web サイト】

- ・富山県西部観光社 「水と匠」 mizutotakumi.jp

令和 2 年度 教師海外研修 実証授業

第4学年 音楽科 学習指導案（略案版）

令和 3 年 1 月 15 日（金）

第 6 校時 14:30～15:15

対象 第4学年3組 28名

授業者 樋口 善幸

1 題材名 「ちいきに伝わる音楽に親しもう」

教材名「こきりこ節」「アイネクライネナハトムジーク」「八丈太鼓」「校歌」「君が代」

2 題材の目標・評価規準

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	日本の民謡や地域に伝わる音楽の歌声や楽器の音色、旋律と曲想との関わりについて気付く。	音色や旋律の特徴が生み出す曲や演奏のよさなどを見いだしながら、日本の民謡を味わって聴いたり、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いや意図をもつ。	進んで地域に伝わる音楽に関わり、協働して音楽を聴いたり話し合ったりする活動に楽しさを感じながら、学んだことを今後の生活や学びに生かそうとする態度を養う。

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に向かう態度
評価規準	日本の民謡や地域に伝わる音楽の歌声や楽器の音色、旋律と曲想との関わりについて気付いている。	音色や旋律の特徴が生み出す曲や演奏のよさなどを見いだしながら、日本の民謡を味わって聴いたり、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いや意図をもっている。	日本の民謡の特徴やよさを味わって聴いたり、地域に伝わる音楽を調べたりして、日本の民謡や地域に伝わる音楽への興味・関心を高めようとしている。
内容のまとめと ま り ご と の 評 価 規 準	歌声や楽器の音色、旋律などによる日本の音楽の特徴と曲想との関わりについて気付いている。	・音色や旋律の特徴などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、日本の音楽を味わって聴いている。 ・旋律や音色の特徴などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いや意図をもっている。	・音色や旋律の特徴などによる演奏のよさなどを見いだしながら聴く学習に進んで取り組もうとしている。 ・民謡の特徴やよさを味わって聴いたり、地域に伝わる音楽を調べたりして、地域に伝わる郷土の音楽への関心を高める学習に取り組む、自己の考えや学び方を調整しようとしている。

2 本時（全 4 時間中の第3時）

(1) 本時のねらい

「八丈太鼓」の演奏や、演奏者の話を聴いたり、友達と話し合ったりする活動を通して、地域に伝わる音楽を学び、続けていくことのよさを自分なりに考える。【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 展開

展開	○学習内容 ・学習活動 C：予想される児童の反応	◆留意点 ★評価
導入 5分	・前時の、「越中五箇山こきりこ唄保存会」の人の話をもとに、五箇山の人々が、どのような思いで「こきりこ節」をつないできたのか、話し合いで出た意見を振り返る。 【都会からお嫁に来て、「こきりこ」を踊っている人の話】 「住むなら踊る、それが当たり前なんです。踊りは楽しいですよ。全国でここにしかない踊りを踊れるって、誇らしいです。」 【ふだんは都会にいて、お祭りのときに帰ってくる人の話】 「古いスタイルの踊りや、即興でつくったという唄。古典的で素朴で、「ほんもの」っていうのがみりよくです。」 C：「こきりこ」は、楽しいけど難しい。私は体験でうまくできなくて、くやしくて、だからやりたかった。昔の人も同じ気持ちだったのではないかなと思う。 C：なくなると、もう1から作れないから、つなごうとしたのだと思う。 T：みなさんが、もし五箇山に生まれていたら、「こきりこ節」について、どう感じていたでしょうか。 C：大人と一緒に祭りとかでやるのは、楽しそう。 C：でも、練習が大変そう。やらなきゃいけないから。 【学習問題】 私たちが、ちいきにつたわる音楽を学び、続けていくよさって？	◆前時の児童の意見を、まとめて板書しておき、学習の振り返りを行うことができるようにする。 ◆児童に対し、「もし五箇山に生まれていたら」と、自身の状況を仮定して考えることのできる問いかけをすることで、個別の事例と児童自身とをつなげて考え、「自分だったらどう思うだろう」と考えることができるようにする。
展開Ⅰ 15分	○「八丈太鼓」の鑑賞・体験および、演奏者の話を聴くことで、五箇山や八丈島の人たちは、どのような思いで地域に伝わる音楽を学んでいるのかを考える。 ・「八丈太鼓」の演奏を聴き、気付いたことを話し合う。 C：2人で太鼓を打っている。 C：拍にのって、同じリズムを反復している。 C：力強い演奏。 C：なんだか踊っているような気分になる。 C：聴いていると、うれしい気分になる。 ・前時に引き続き、長胴太鼓を使って、「八丈太鼓」を体験したり、友達の演奏を聴いたりする。 ・前時・本時で行った「八丈太鼓」の体験を振り返り、気付いたことや感じたことを話し合う。 C：「自由に打つ」って難しいけど、楽しい。 C：先生と合わせるのが、難しかった。	◆「リズム」「強弱」「音の重なり」等、これまでの題材で学んだ視点から考えるように促すことで、児童が音楽を形作っている要素とその効果について考えることができるようにする。 ◆教師は、「下拍子」を担い、児童は即興的に「上拍子」を打つようにする。 ◆体験を言語化する活動を組み入れることで、実際に郷土の音楽を演奏し伝えている人たちの気分を疑似体験することができるように

	C：もっとやってみたい。 ・再度、映像付きで、「八丈太鼓月曜会」の演奏を映像付きで聴く。 C：自分たちの打ち方と全然ちがって、びっくりした。 C：小学生が堂々と打っていて、すごい。 C：さっき「カッコいい」と思って聴いた演奏が、同じ年の子がやったものだったなんて、びっくり。 ・「八丈太鼓月曜会」に所属する児童の話を聴き、地域に伝わる音楽を学ぶこと・つなげていくことのよさについて考える。 「おばあちゃんが、八丈太鼓をやっていて、それで（太鼓を）始めました。」 「相手と同じ速さで、同じリズムはなるべく使わないようにしています。」 「例会で、下拍子も上拍子も、カッコよくできるようにしたいです。」	する。 ◆総合的な学習の時間で交流する、八丈町立三根小の児童が打っている演奏を聴くことで、児童が「八丈太鼓」をより身近に感じることができるようにする。 ◆「始めたきっかけ」「気を付けていること」「今後どうしていきたいか」に対するインタビュー映像を見せ、奏者がどのような思いで「八丈太鼓」を演奏しているかを考えるようにする。
展開Ⅱ 20分	○「こきりこ」「八丈太鼓」の鑑賞や体験を通し、自分たちが地域に伝わる音楽を学び、続けていくことに、どんなよさがあるのかを考える。 ・個人で自分の考えをまとめ、付箋に記入する。 C：地域の人々の伝統を受け継いでいくことができる。 C：みんなで同じ音楽を演奏できると、楽しい。 C：協力することを学べる。 C：昔の人々や、地域の人々の思いや願いも、歌にのせて伝えていくことができる。 C：なくなる、ということも、良さだと思う。 C：できなくて、くやしい。努力をして、成長できるかもしれない。 C：大人から子供へと音楽を教える中で、地域の大人のひとと仲良くなれるかもしれない。 C：自分たちの音楽を、受け継ぐだけでなく、広めていける。 C：教わった側も、教えた側も嬉しくなる。	◆次時でチャート上にまとめることができるように、付箋に記入するよう指示する。 ◆支援を要する児童に対しては、「五箇山や八丈島の人たちは、どうして音楽を続けているのか」「音楽を演奏するときに、どんな気持ちなのか」を考えるように促し、よさを見出すことができるようにする。 ★民謡の特徴やよさを味わって聴いたり、地域に伝わる音楽をつないでいる人々の話を聴いたりする活動を通して、友達や資料との対話を通して、自己の考えを調整しようとしている。【主 発言】
例 ちいきにつたわる音楽を学び、続けていくと、伝統や文化を、次へとつないでいける。		
まとめ 5分	○郷土につたわる音楽を学び、続けていくことに、どのような良さがあるのか、自分たちの考えをまとめる。 ・グループで、短冊に書いた内容を交流する。次時で、グループごとにXチャートにまとめて、発表会を知ることを知る。	◆モデリングすることで、チャートを使って自分たちの考えを仲間分けすることについて、見通しをもつことができるようにする。

(3) 板書計画

【学習問題】 私たちが、ちいきにつたわる音楽を学び、続けていくよさって？

こきりこ節の体験

- ・ビブラートみたいな歌い方、長い音
- ・お祭りの楽しさがかつやくする
- ・子供も大人も一緒に演奏している

できないと、くやしい
楽器には、いろんな打ち方がある
子供がやっていて、すごい。

八丈太この体験

- ・リズムのくりかえし
- ・と中で速さが変わった

合わせて打つと楽しい
自由に打つのが、難しい

○「こきりこ節」を演奏している人の思い

「住むならおどる、それが当たり前なんです。おどりは楽しいですよ。全国でここにしかないおどりをおどれるって、ほこらしいです。」

「古いスタイルのおどりや、そっきょうでつくったといううた。昔ながらでそばくで、「ほんもの」っていうのがみりよくです。」

○「八丈太こ」を演奏している人の思い

「相手と同じ速さで、同じリズムはなるべく使わないようにしています。」

「例会で、下拍子も上拍子も、かつこよくできるようにしたいです。」

(4) 資料 児童配布ワークシート（資料部分のみ抜粋）

資料 「こきりこ節」を歌いつぐ 五箇山（ごかやま）の人々の話

他のちいきから、五箇山に、嫁いできた人の話



Q どうして、おどりをおどっているのですか。

「住むならおどる、それが当たり前なんです。おどりは楽しいですよ。全国でここにしかないおどりをおどれるって、誇らしいです。」

ふだんは都会に住んでいて、おまつりの時にもどってくる人の話

Q おどりの 楽しさは何ですか。

「古いスタイルのおどりや、即興でつくったという、うた。古典的で、そばくで、「ほんもの」っていうのが、魅力です。」



ほぞん会 会長 岩崎喜平さんの話



Q どうして「こきりこ節」は、復活したんですか。

「それは、「心」です。歌っておどると、「心」と「心」がつながります。難しいことでは、つながることはできません。五箇山は、そういう「心」をつないだいき、ということです。」

Q こきりこ節を、うけついでいくことについて どう思いますか。

「伝統をうけつぐ、となると、まずは師匠に弟子入りするところからですが、「こきりこ節」は、そういうものじゃなく、自由です。やりたい人がやればいいのです。」

研究主題

主体的・対話的で深い学びの充実に向けた授業の創造

～新しい教育を学ぶ「情報教育・教科教育・グローバル教育」を通して～

グローバル教育部研究テーマ

児童が、持続可能な社会の創り手として 自らの行動を変えていくための
カリキュラムマネジメント・授業づくり

第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

日 時 令和2年12月16日（水）
第5校時13：15～14：00
対 象 第4学年3組 28名
学校名 羽村市立武蔵野小学校
授業者 教諭 北村 江未
会 場 3階 家庭科室

1 単元名 「20才の私たちへのメッセージ」

2 「総合的な学習の時間」の目標

- ・各教科と双方向性をもち、探究的な学習をすすめることで生きて働く知識・技能を身に付けることができるようにする。
- ・探究的な学習過程を設定し、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質・能力を育成する。
- ・問題の解決や探究的活動に主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

3 単元の目標及び評価規準・内容のまとまりごとの評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	地球規模の環境課題にかかわる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識および技能を身に付けているとともに、既習事項や生活経験をもとに地球の環境課題の現状と人々の生活の仕方との間に因果関係があること・環境課題同士が関連し合っていることに気づき、人々が協力し合って課題解決のために行動を変えることの大切さを理解している。	日常生活での気づきや他教科での既習事項および調べたことをもとに、持続可能な社会の実現に向けて解決したい身近な場面での課題を設定し、協働的な学習を通して批判的・多面的・統合的に解決策を吟味したり、考えたことをまとめ・表現したりする力を身に付けている。	地球規模で起きている環境問題についての探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、持続可能な社会を実現するために、将来の自分のありたい姿を想像し、自らの行動を変容させたり社会に参画しようとしていたりしている。

具体的な評価規準			
探究課題	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
SDGsの視点から捉えた地球の環境課題と、それらの解決に向けた自分たちの取り組み	- 既習事項や生活経験・調べたことをもとに、地球には様々な環境課題があることに気付いている。 (多様性) - 自分たちの生活が環境課題とどのようにつながるのかという視点に立ち、試行錯誤しながら課題を解決する方法を見いだしている。 (相互性) - 自分の考えや行動を変容させることで、未来の社会が持続可能になると気付いている。 (有限性)	課題設定の場面において、環境課題を解決するために、身近な場面では自分たちに何ができるのかを考え、課題を見いだしている。 情報の収集の場面において、よりよい解決方法を提案するために必要な情報を、手段を選択して収集している。 整理・分析の場面において、友達と協力して比較・検討することで、課題達成に向けて情報を精選したり手立てを見直したりしている。 まとめの場面において、相手や目的に応じてわかりやすくまとめている。	- 自分と違う考えや意見を尊重し、自分の考えを調整しようとしている。 (自己理解・他者理解) - SDGsの視点から課題について考える学習に興味・関心をもち、自分たちにできることを考える活動に主体的・協働的に取り組もうとしている。 (主体性・協働性) - 環境問題への解決策を考える取り組みの中で、自分の良さや可能性に気付き、自己の生き方や未来の社会の在り方について考えようとしている。 (将来展望・社会参画)

4 指導観

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領「総合的な学習の時間」第2章第2節1(2)を受け、設定した。本単元は、昨年度までの第4学年「私たちの水はどこから」の単元をもとに、他校との交流や体験的な活動、研究者からの直接の情報収集等を組み入れ、単元を再構成した。SDGsを切り口に、環境課題を「自分ごと」として捉え、解決の過程を経ることで持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力を身に付けるようにすることをねらいとしている。

第一次においては、「10年後の地球」について想像することを入りに、SDGsの17項目と出会う。SDGsについてもっと調べたいと考えた児童は、SDGsの項目を1つ選び、その目標に関連する環境課題について本やインターネットで調べ、新聞を作成する。友達と作成した新聞を紹介し合い、共通点や相違点を見出す活動を通し、「自分たちの生活の仕方が、環境課題を引き起こしているのではないか」という仮説を立てる。

第二次では、児童の自分たちが日頃から使用している「水」を切り口に、「にごった海水」「にごった川の水」「透き通った水道水」等を見比べる活動を通し、「わたしたちの水は、どこから来ているのか」という疑問をもつようにする。そこで、社会科の浄水場見学や、海洋汚染について研究しているゲストティーチャーによる出前授業を設定する。浄水場の仕組みを学び、海の博士から、水の循環について、マイクロプラスチックについての情報を得た児童は、水は海につながっているからこそ、人間のこれまでの生活様式が原因で、海洋汚染が起きていることに気付き、自分が探究・解決したい課題を設定する。

第三次では、海洋問題を入りに、SDGsに関連する様々な環境課題を解決するために、自分たちの行動を変えるための具体的な解決策を考える。一人ひとりが考えた解決策をもとに、「未来の自然を守るため」の作戦を立案する。作戦を交流させ合う際、思考ツールを用いて作戦を分類する活動を組み入れ、「作戦同士がつながっている」「どの作戦も海を守ることにつながっている」「どの作戦も必要な作戦である」気付きを引き出すことで、作戦実施の必要性を実感することができるようにする。

第四次では、第三次で考えた作戦を実践するにあたり、社会科で学習した八丈町立三根小学校の4年生に向けたプレゼンテーションづくりに取り組む。発表の前に、実際に作戦を試してみる活動を通し、児童の

「自分たちも、三根小の児童も実践するために、誰にでもできるよう考えを見直したい」という思いを引き出す。発表を経てフィードバックをした後に、次年度へ向けて取り組みたいことを考えるとともに、学習全体の振り返りを行うことで、自分の良さや可能性に気づき、今後の自己の生き方や未来の社会の在り方について考えることができるようにする。

このように、第一次から第四次の探究の過程を経て、児童に相手意識をもたせる手立て・実体験を伴う活動を仕掛け、必要感をもつようにする。このことから、児童が SDGs に関する課題を自分ごととして捉え、自分の行動を変えていくことができると思う。

(2) 児童観

本学級の児童は、どの教科の学習に対しても素直に・真剣に取り組み、自分の考えを発表したり、活発に話し合ったりしている。特に持続可能な開発や国際理解に関する課題について考えた際は、児童は、自ら疑問に思ったことについて調べたり、自分の意見を伝え合ったりする姿が見られる。一方、課題を自ら立案することに対する関心は低く、自分の考えの修正点を見付け、より良いものにしていくことや、考えたことを実践し、吟味するプロセスにおいても苦手意識をもっている児童が多い。根底には、間違いを恐れたり、見通しがもてない場面で不安になったりする児童の実態がある。

そこで、本単元においては、八丈町立三根小学校との交流を設定し、児童が必要感をもって課題を設定することができるようにする。また、持続可能な社会の構築のための作戦づくりを行い、実践することで、「絶対解のない」課題に対し、児童が自由に想像を膨らまし、豊かな予想や発想をする姿を引き出す。そして、ESD レンズ「批判的レンズ（見直すレンズ）」を通して、自分の意見と友達の意見との比較・検討をする場面を設定することで、児童が自分の意見を振り返り、考えを繰り返し構築し直したり、友達の考えを受け止めたりする経験を積むようにする。また、「統合的レンズ（つなげるレンズ）」を通して、互いの考えの共通点や相違点をさぐりながら、考えと考えとのつながりを考える場を設定し、自己の考えの変革をねらう。

本単元および他教科等における ESD を通して、自分たちの未来を予測し計画を立てる力を身に付け、持続可能な社会の創り手としての自己の生き方を考えることができるようにしていく。

6 単元指導計画（全15時間）

		実施日	学習活動	関連する教科・学習	具体的な評価規準
第一次 課題設定	1	7/17（金）	○SDGs って何だろう ・ SDGs について知る。 ・ 17 項目についての内容を学び、身近に関係していることを捉える。	音楽科 ・ 世界と音楽でつながることができる。	
	2	7/29（水）	○自分でできる SDGs を考えてみよう ・ 17 項目の目標から、身近な生活の中で持続的に取り組めることを考える。		○自分たちの生活の仕方と、環境問題が関連していることに気付いている。 【思・判・表】

第二次 情報収集	3	9 / 8 (火)	○みんなの地球について知ろう ・現在の地球の危機について知り、気付いたことを出し合う。 ・海について自分なりのイメージを膨らませる。 (手立て：地球規模の問題の映像) ・出前授業での質問内容を考える。	国語科 ○SDGs 新聞を作ろう ・事実に基づき、分かりやすく書くことができる。	○他の環境問題や海洋問題が、自分たちの生活にも深く関係していることを理解し、探究的に調べたり、目的に応じて考えたりしている。 【知・技】
	4	9 / 15 (火)	○みんなの知っている海について考えよう ・地球上での海洋に対する考えを広げる。(不思議だと思ったこと、現状の様子等の課題、海水を見て感じたこと、気付いたこと) ・自分が使用している水について考える。 (手立て：実物の海水、水比べ、SDGs カード)		○身近な人から聞き、日常生活から課題を見付けることで、環境問題に興味をもち、解決に向けて、他教科の学びを関連付けながら見いだそうとしている。 【主】
	社会科	9 / 17 (木) 出前授業 社会科 ○水はどこから (出前授業「海と空について」から学ぼう 水の出発とゴール) 講師名 海洋研究開発機構アプリケーションラボ研究員 森岡 優志先生 ・水の出発とゴールについて理解し、海洋についての学びを広げる。 ・水のゆくえについて振り返り、海洋問題は、自分たちの生活と結び付いていることを理解する。			
	5	9 / 25 (金)	○みんなの地球について、地球のためにどんなことができるか考えよう ・出前授業の振り返りを行い、海洋への興味関心を高める。 ・出前授業から気付いた地球規模の問題について、自らの課題を設定する。	社会科 ○東京都の南にある島、八丈島について知ろう ・東京都の海が身近にある八丈島に興味をもつことができる。	○海洋問題が他の環境問題や自分たちの生活にも深く関係していることを理解し、課題を立案している。 【知・技】
	6	10 / 6 (火)	○実際に地球のために、自分たちにどんなことができるか考えよう ・自分事として、問題解決をするためにどんなことから取り組めるのか考える。 ・SDGs の項目を想起しながら、どんな目標を達成できるのかイメージする。 (手立て：SDGs カード) ・SDGs に関して考え直し、海洋問題が海だけの問題なのか考える。	社会科 ○八丈島について調べてみよう	○海洋問題と、多様な環境問題が関連しあっていることに気づき、自分たちの生活との関連について理解を深めている。 【知・技】
	(つかむ)				

	7	10/13 (火)	○実際の地球ためにできる工夫を考えよう ・友達の考えを聞き、グループを見付ける。 ・グループごとに考えを話し合うことができる。		
10/19 (月)～11/17 (火) 社会科 ○三根小学校の4年生と、お互いの考えを伝えよう ・八丈町立三根小学校4年生へ、自分たちの作戦を紹介することを知り、身の回りの問題を解決するための作戦づくりの学習に興味・関心をもつ。 【主】 ○玉川上水について調べてみよう ・玉川上水は、江戸（東京）の水源になったことを知る。 【知・理】 ○玉川上水について知ろう ・郷土資料館および羽村取水堰見学・振り返りを行い、きれいな上水をつなげたり守ったりしようとした先人の知恵を学び、水の大切さについて考える。 【思・判・表】					
第三次 整理・分析	8	11/24 (火)	○出前授業 「海洋プラスチックについて」 講師：九州大学 応用力学 研究所 磯辺 篤彦先生		○海洋問題を自分事として捉えている 【知・技】
	社会科 八丈島との交流会 ○羽村市の紹介をしよう ・自分の住んでいる町の良さを紹介する。				
	9	11/30 (月)	○自分たちも自然問題を解決するための方法を考えよう ・自然問題のため、続けられる問題解決の方法や工夫を考える。		○自分たちの生活の仕方から、何が問題かを見いだしたり、多様な解決策を考えたりして、解題解決に向けての計画を立てる。 【思・判・表】
	10	12/10 (木)	○未来のために本当にできる方法を見付けよう ・ポスターを見合わせ、同じ考えの友達を見付け、カテゴリーずつに分かれ、ポスター（タブレット）にまとめ直す。		○他者との交流を通して、考えを付け足したり、変更したりしながら、新たな気付きを生み出すための試行錯誤をしている。 【思・判・表】
	11 本時	12/16 (水)	○身の回りにある問題を解決する作戦は、海を守ることとどんな関係があるのか考えよう ・コンセプトマップを活用し、海洋問題と作戦との関係を考え、自分たちの作戦が海洋問題の解決にもつながっていることに気付く。		◎海洋問題の解決に、自分たちの考えた作戦が関係していることを捉えたり、大切な海を守ることとどれも必要なことだと気付いたりすることができる。 (発言・ワークシート) 【思・判・表】
	12	1/18 (月)	○八丈島の4年生と交流準備をしよう（発表会準備） ・自分たちの未来の自然を守るために考えた方法を伝える練習をする。		○相手意識をもち、ポスターや伝え方に工夫を繰り返し、取り組んでいる。 【思・判・表】

第四次 まとめ・表現	13	1 / 2 1 (木)	○発表のリハーサルをしよう ・八丈島の4年生に伝えるように、相手意識をもって取り組む。		○相手意識をもち、伝えるような工夫を繰り返し、取り組んでいる。 【思・判・表】
	14	1 / 2 5 (月)	○八丈島の4年生と未来の自然のための交流会をしよう ・未来に向かって持続可能な取り組みを伝え合い、未来の自然のためについて、意見交流をする。		○未来の地球について学習してきた取り組みを、相手意識をもち伝えようとしている。 【思・判・表】
	15	1 / 2 9 (金)	○自分たちは、「20才までの未来に向けて」続けていける方法か振り返ろう ・これまでの学習を振り返り、20才に向けて自分たちが考えた取り組みが、実践していかなければいけないことに気づき、これからの生活に生かそうと考える。		○学習内容を振り返り、今後の学習や生活に生かす方法を考えている。 【思・判・表】

7 指導に当たって

手立てA 単元構成の工夫（カリキュラムマネジメント）

海から離れた羽村市に住む子供たちは、現在海洋で起きている問題に対するイメージが乏しく、課題を設定することや、自分の考えを広げたり深めたりすることが難しい。よって、本単元を通して、児童が現在海洋に起きている問題について興味・関心をもち、SDGsの17の目標と関連付けて多様な視点から解決策を考え、必要感をもって自ら課題解決に向かおうとするために、単元構成を工夫した。

まず、子供たちの身近にある水に関する学習を主軸とし、教科横断的に学習を進めるため、ESDカレンダーの作成を通してカリキュラムマネジメントを図った。

①国語科「新聞づくり」において、目的意識をもって調べ学習をする姿を引き出す。

「ランドセルは海を越えて」を読ませた後に、SDGsに関する新聞づくりを設定し、児童は、自分の言葉で新聞にまとめるために、自らSDGsの17の目標やそれらに関連する環境課題について調べる姿を引き出した。その上で、環境課題を「自分ごと」として身近に捉えさせるために、

②理科「自然の中の水の姿」において、実物の比較を通した子供の問いを引き出す。

「自然の中の水の姿」では、海水と羽村の水道水を見比べたり、ステップチャートを用いて水の循環について考えたりさせ、地球上のすべての水が海から循環していることに気付かせた。

③社会科「とどけよう命の水」・「ゆたかな自然を守り生かす八丈島」において、実体験や他校との交流を通した、環境課題を解決することへの必要感を引き出す。

「とどけよう命の水」では、玉川上水取水堰付近や羽村市郷土資料館の見学を通して、上水を江戸の街へつなげ、水質を管理して江戸の人々の暮らしを守った先人の知恵や努力について考えを深めさせた。また、「ゆたかな自然を守り生かす八丈島」では、本土と八丈島との比較からの情報収集を通して、同じ東京都内に、自然環境を生かして暮らす地域があることを知り、そこに暮らす人々の思いについて考えるようにし、八丈町立三根小学校との交流を計画した。

これら他教科での学びを生かし、児童が広い視野から考えて課題を設定したり、必要感をもって自ら課題解決に向かうようにしたりするために、本単元においては、以下の手立てを講じた。

①現在海洋で起きている問題に対する視野を広げるための出前授業

「自然の中の水の姿」で「自分たちの考えが本当に正しいか」を調べたいという児童の思いから、第2次にお

いて「水の循環について」「マイクロプラスチック」について出前授業を設定する。ゲストティーチャーとの対話を通して児童は情報を収集し、水が循環しているからこそ、人間生活の結果海洋汚染の問題が起きていることに気付く。

②海が身近にある八丈島の小学生との交流活動

第4次において八丈島に生きる4年生児童と、海洋問題の解決策について交流する学習活動を設定した。ここでは、自分たちが考えた「海を守るための作戦」を八丈島の4年生へ紹介したいという児童の思いを引き出し、そのために「わかりやすくまとめたい」「本当に作戦をやってもらって、感想を伝えてほしい」という相手意識・目的意識をもたせるようにする。また、解決策が「実践可能か、持続可能性があるか、効果的であるか」という点からフィードバックを得るようにする。自分の作戦を考え直した児童は、「次は、他の学年や学校、地域に広げていきたい」「まず自分たちが行動したい」という思いをもつようになると考える。

このように、外部の資源と児童とを結び付け、他教科との関連をふまえた本単元の展開をすることで、児童が、環境課題を自分事として捉え、解決に向けて行動するという、「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」を身に付けることができると考えた。

本時では、これまでの身近な自分たちの生活の中の問題を捉える学習や他教科での学習を踏まえ、特に海の博士による出前授業で学んだことを振り返る場を設定した。これまでの記録を蓄積したポートフォリオを見返す場面を設け、ゲストティーチャーからのメッセージを振り返ったり、海洋汚染が起きている現場の写真を見たりして既習事項を想起するようにする。「海の問題を解決するために、羽村にすむ自分たちにできることは限られているのではないだろうか。」という発問をきっかけに、児童に「今まで、身の回りの自然を守るための作戦を考えてきたが、陸と海とはつながっているから、自分たちの作戦も海の問題の解決につながっているのではないか。」「自分たちの作戦だけでは、すべての海の問題を解決することができないのではないか。」という思いを引き出すようにする。このことで、人々が協力して行動を変えていくことの大切さに気付き、自分たちの作戦の意味を吟味する姿につながっていくのではないかと考えた。

手立てB ESDレンズを通して見る学習活動の意図的な設定

児童は日常生活の中で、ごみの分別・減量や、給食を残さず食べることの大切さについては意識している。しかし、それらの行動が大切である理由について想起する経験が乏しく、「言われたからやっている」「なんとなく大切だと思うから」という考えのもと行動している姿が見られる。そのため、本単元において環境課題について話し合う際に、断片的な知識・狭い視野から考えてしまい、短絡的に解決策を見出してしまったり、他人ごとの立場に立って考えたりすることが予想される。このような実態の児童が、多様な視点から根拠をもって解決策を考えたり、何度も作戦を振り返ったりと試行錯誤するためには、その拠り所となる「見方・捉え方」を獲得したり活用したりすることができるようになる必要があると考える。

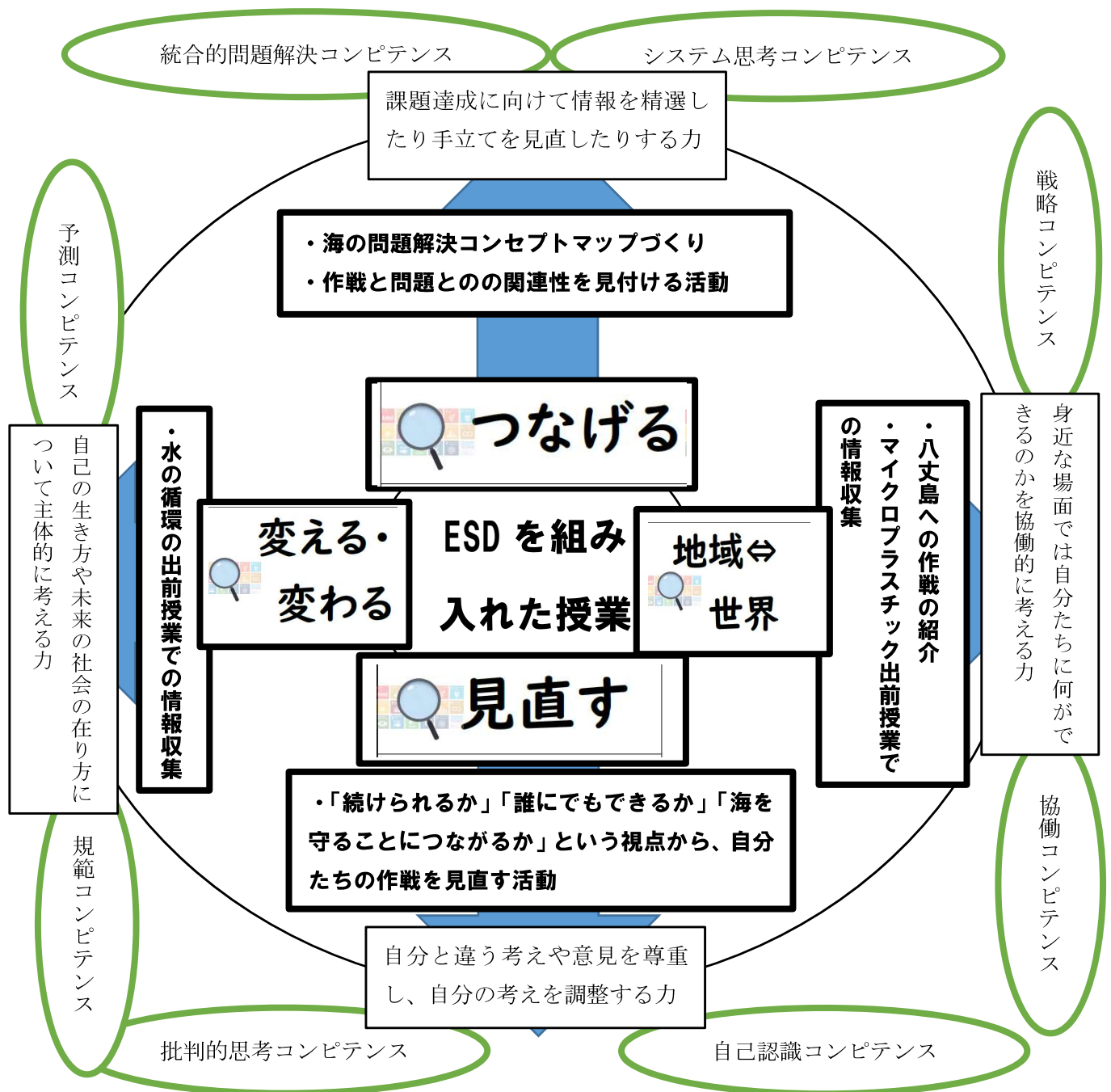
そこで、学習過程について、ESDレンズを獲得したり働かせたりする場を設定する。児童が自分の考えを「繋げる・見直す」過程を価値付け、その後も同様の見方を活用することができるようになる。

前時や本時では、一人一人の作戦が互いに関係し合っている事や、どの作戦も海洋問題と関連し、解決に欠かせないものであること、また、海洋問題を解決するには1つだけでなく、様々な行動が必要であることに気付かせたい。そのために、本時では、「統合的レンズ（つなげるレンズ）」を働かせて対話をする活動を組み入れる。思考ツール（コンセプトマップ）を用いて、海洋問題に関連付いていることに気付き、自分の作戦や友達の作戦が、自分たちの理想とする10年後の海の姿にどのようにつながるのかをコンセプトマップに示すことで、海洋問題の原因を解決するための作戦とのつながりを可視化したり、作戦同士の関連やつながりがあることにも気付いたりすることで、多様な解決策が必要である大切さを実感できるようにする。

本単元と他教科等との関連(ESD カレンダー)

教科 ^④	6月	8月	11月	12月	1月 ^④
総合 ^④	水の循環について考えよう→出前「海と空について」→地球のためにできること→身の回りの問題に対してできること ^④ →出前「海洋プラスチック問題」 ^④ →海洋問題に対してできること ^④ →八丈島に伝えよう ^④				
社会 ^④	東京都の地形の様子 ^④ → ゆたかな自然を守り生かす八丈島	とどけよう命の水 (玉川兄弟と玉川上水の開発)	健康なくらしとまちづくり ^④ → 昔から今へ ^④		
理科 ^④	天気と気温 → 雨水のゆくえと地面のようす → 自然の中の水のすがた ^④				
国語 ^④	事実に基づいて書かれた本を読もう → 新聞を作ろう (SDGs 新聞) ^④ (ランドセルは海をこえて) ^④				
音楽 ^④	音楽で心の輪を広げよう (SDGs の観点からの歌詞理解)	ちいぎに伝わる音楽に親しもう (八丈太鼓) ^④			

本部会が考える、本単元における ESD と総合的な学習の時間との関連図



 つなげる	 地域⇔ 世界	 見直す	 変える・ 変わる
統合的レンズ	文脈的レンズ	批判的レンズ	変容的レンズ

参考 「未来の授業 私たちの SDGs 探究 BOOK」(宣伝会議) P116

8 本時(全 15 時間中の第 12 時)

(1) 本時の目標

自分たちが考えた「身の回りにある問題を解決する作戦」が、海の問題解決にもつながるかを考える過程で、自分の考えを友達に伝えたり、見直したりすることができる。(思・判・表)

(2) 本時の展開

時間	○学習活動	◆指導上の留意点	◎評価規準(評価方法)
導入 10分	○前時の振り返りをする T:今日は、何の問題について考えたいですか。 C:海です。 T:海について考えましょう。 T:これまでいろいろ海について、勉強してきました。海にはどんな問題がありましたか。 C:マイクロプラスチックがあります。 T:マイクロプラスチックって、何が原因でできるのかな? C:ペットボトル。プラスチックごみ。 T:どうして、海にペットボトルがあるの? C:海にごみが流れ着いたから。 T:そういえば、このような写真を見ましたね。プラスチックごみの問題がありました。他には、どんなものがありましたか。 C:あまり思いつかないな。 T:たとえば、こんな写真がありましたね。 C:シロクマが流されている! T:どうしてこんなことになったの? C:海があったかくなっているから。 T:温暖化の問題がありましたね。これらの問題に対して、みんなだったらどう向かっていく? C:自分たちの作戦を見直します!海に行ってゴミ拾いします。 C:でも、「ゴミ捨て隊」の私たちの作戦が、マイクロプラスチックの問題につながりそうです。 T:どうしてそう思ったの? C:ゴミ箱をたくさん設置して、みんなに分別してもらう私たちの作戦をすると、リサイクルできて、ゴミが減ると思うからです。 T:他のグループの作戦はどうだろうね。 C:つながるかもしれない。 T:じゃあ、今日は何を考えようか。	◆前時の最後に、これまでの学習内容を想起させることで、児童が、海の問題を考えたいという意欲を引き出す。 ◆既習事項について、個人で思い出し、グループで共有した後、全体に発表させることで、全員が想起することができるようにする。 ◆出前授業で講師から示された写真を提示したり、友達と話し合ったりすることで、現在海洋ではどのような問題が起きているかを確認する。手立てA	
自分たちの考えた作戦は、海の問題とつながっているか確かめてみよう。			

展開Ⅰ 10分	○見出した海での問題点に対し、自分たちが考えた作戦が海の問題とつながっているか、グループで話し合う。 T：陸の問題と同じように、コンセプトマップにまとめましょう。 T：自分たちの作戦が、どの海洋問題とつながるか、カードを並べてみよう。 C：僕たちの作戦は、リサイクル作戦だから、ごみ問題を解決するのではないか。 C：いや、リサイクルをすすめると、マイクロプラスチックがへって、魚がへるのを防ぐこともできるかもしれない。 C：そうか。そうしたら、「魚がへっている問題」のところにも貼り付けよう。	◆中心に海洋問題を据え、同心円状にその原因と、その解決につながる「陸の作戦」を示したコンセプトマップを作るようにすることで、陸の作戦と海洋問題とのつながりに気付かせる。手立てB	◎自分たちが考えた「身の回りにある問題を解決する作戦」が、海の問題解決にもつながるかを考える過程で、自分の考えを友達に伝えたり、見直したりしている。 (発言・ワークシート) 【思・判・表】
展開Ⅱ 15分	○完成したコンセプトマップを見ながら、自分たちの考えた作戦と海の問題とがつながる理由を学級で話し合う T：それでは、なぜそこに短冊を貼ったのか、理由を発表してください。 C：私たち「ゴミ捨て隊」は、「ゴミが多い問題」につながると考えました。 T：どうしてそう思ったのですか？ C：分別をしてもらおうと、ゴミが海まで行かなくてすむからです。 T：そう考えたのですね。他に、同じく「ゴミ捨て隊」を「ゴミが多い問題」につなげた人はいますか？ C：ゴミ箱をふやすと、ゴミが減るので、私もそのようにつなげました。 T：では、「ゴミ捨て隊」の作戦が、「ゴミが多い問題」以外とつながると考えた人はいますか？ C：「マイクロプラスチックの問題」につながると思います。ゴミを正しく分別すると、プラスチックごみは海までいきません。	◆自分たちが考えた陸の作戦をコンセプトマップ上に示させることで、海の問題と自分たちの作戦とのつながりが見える化する。 ◆1つの海洋問題に対して、複数の付箋が重なった場面を取り上げ、自分たちの作戦だけではなく、他のグループのつくった作戦と海洋問題とのつながりにも気付かせる。	
まとめ 10分	<p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>T：つくったマップを見て、気付くことはありますか。</p> <p>C：1つのグループで、2つの問題を解決することができそうです。</p> <p>C：陸で考えた時と同じように、全部の作戦がつながっていくかもしれない。</p> <p>C：陸のために考えた作戦は、海の問題にもつながっている。</p> <div data-bbox="236 1671 1497 1729" data-cs="3" data-kind="parent">自分たちが考えた陸での作戦は、海の問題にもつながっている。</div> <div data-kind="ghost"></div> <div data-kind="ghost"></div> <p>T：みんなが考えたことって、SDGsでいうと何番とつながりそうかな？</p> <p>C：14番、15番。あれ、17番にもつながるかも。</p> <p>T：みんなの作戦は、SDGsの目標にもつながっているんだね。</p>	◆コンセプトマップに貼った作戦の位置に注目させることで、全ての作戦が海の問題解決とつながっていること、作戦どうしの目的や内容が関連していることに気付かせる。手立てB ◆SDGsの目標と、児童の本時の学びとを結び付けることによって、児童が作戦を行うことに対して価値付けをする。	

ランドファイル ハーモニック



この時間は、何の時間かな？

1900分

15分

作品展までの図工の時間
=
「平面作品」「立体作品」
1点ずつ仕上げるのに
かかった時間

作品展の片づけに
かかった時間

ゼロからなにかをつくる＝大変！

つくりたい、表したい
思いや願い

ゼロから なにかを つくった人の話



ファヴィオ・チャベスさん
(元 音楽の先生)

武蔵野小学校→パラグアイ



© 2020 ZENRIN

Google Earth

35° 45'39.41" N 139° 19'57.58" E 標高 157 m 高度 218 m

2003



イグアスの滝（ブラジル、アルゼンチン、パラグアイの
国境近く）

世界遺産。80m以上もの落差



トリニダいせき(世界遺産) 昔の教会。





パラグアイの人々

- 出典 [パラグアイとウルグアイは何で国名が似ているの？ - 携帯ニュースサイト「NEWSmart共同通信ニュース」のインフォメーションサイト](#)

• Guaraní



先住民
グアラニー 人



出典 ブラジルの先住民の若い女性と彼女の子供はグアラニー語民族性からの肖像画 - 先住民文化のストックフォトや画像を多数ご用意 - iStock (istockphoto.com)

先住民＝その土地に元から暮らしていた人々



北海道の先住民 「アイヌ」の人々

- 出典 [アイヌ民族 - 新Wikiリヒト \(memo.wiki\)](#)

ミラネッサ（牛カツ）





マンジョーカ(いも) パラグアイの主食



マンジョーカからつくったパン
「チカ」



エンパナーダ

(ひき肉 & 玉ねぎ チーズ & ハムなど
具材が入った、あげぎょうざのようなもの)





マテ茶









出典【[パラグアイ](#)】イグアス移
住地で日本食を食べまくる！
([外食編](#)) | あっ旅
([atsushiyoshida.com](#))

なぜ、地球の反対側に

ラーメン

つけもの

を、出す店があるのでしょうか・・・



© 2020 Basarsoft
© 2020 Google
Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO
US Dept of State Geographer

Google Earth

高度 15454.00 km

イグアス 移住地

イグアス日本人移住地(いじゅうち)







JICA教師海外研修 過年度参加の先生の資料より



イグアス移住地にも
このような学校があります
(パラグアイの他の地域にある
日本人学校の様子)

ラ・パス日本語学校

弟とけんかになっておこられた

河野 錫



今から、60年前
日本から「移住」した人たちがいる



JICA横浜 移民資料館 資料

船に2カ月半乗って移動

何のために
日本を離れて
パラグアイに
行ったのでしょうか・・・





出典 [パラグアイ大豆生産の歴史年表 - 豆の育種のマメな話 \(goo.ne.jp\)](http://goo.ne.jp)



The background of the image is a dense field of yellow soybeans. A bright green, multi-pointed starburst shape is centered over the beans. Inside this starburst, the Japanese text "大豆などを生産するため!" is written in white. There are also a few broken soybean pods visible among the whole beans.

大豆などを
生産するため！

(単位:千t)

生産量

1位	アメリカ	106,934
2位	ブラジル	100,000
3位	アルゼンチン	59,000
4位	中国	11,800
5位	パラグアイ	7,800
6位	インド	7,500
7位	カナダ	6,235
8位	ウクライナ	3,932
9位	ウルグアイ	3,110
10位	ボリビア	3,100

⋮

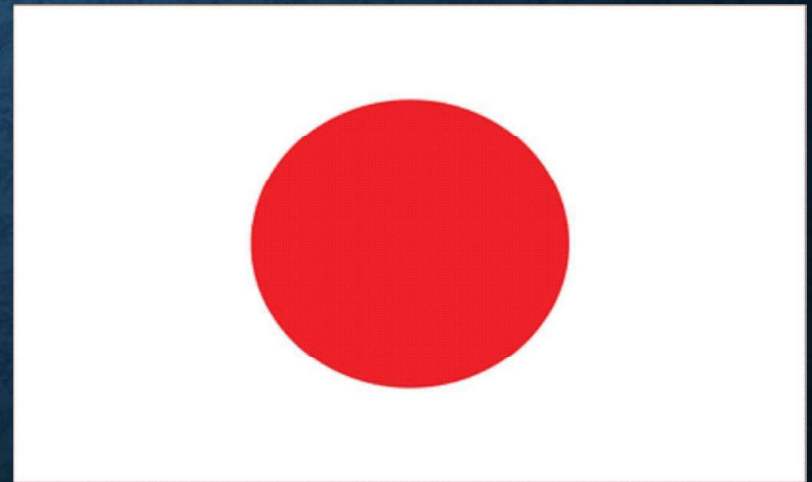
18位	日本	232
-----	----	-----

消費量

1位	中国	95,250
2位	アメリカ	54,425
3位	アルゼンチン	50,050
4位	ブラジル	43,000
5位	EU	15,320
6位	インド	7,850
7位	ロシア	4,550
8位	メキシコ	4,290
9位	パラグアイ	4,110
10位	日本	3,095

農林水産省HPより
大豆生産(つくる)量・消費(たべる)量

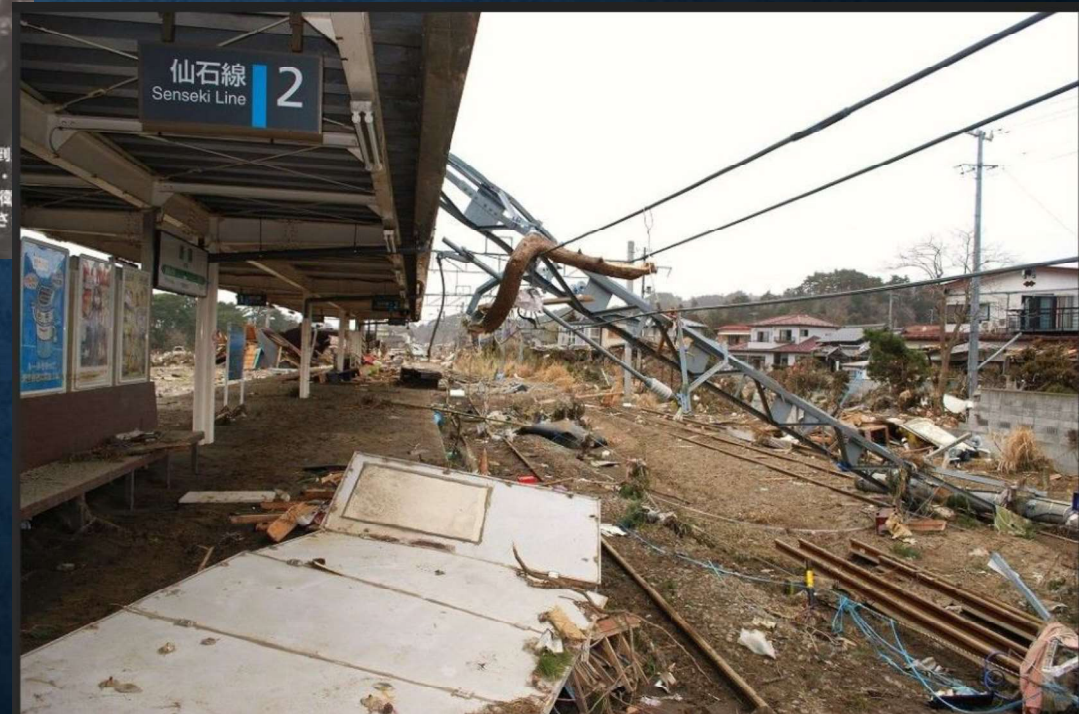
パラグアイと日本の関係



東日本大震災 (2011年3月)



震災遺構荒浜小学校
被害を受けた野蒜駅(JICA教師海外研修資料)





出典東京大震災ブログ:被災地の再建と復興 (tokyodisaster.blogspot.com) など



・避難所では
「生鮮食品」が、手に入りづらい

そこで！





心はひとつ



Corazones Hermanados

パラグアイ国民は日本を応援します。

賞味期限
11.04.20

被災地支援 長期間保存豆腐

南米パラグアイ国は東日本大震災に際し、
同国日本人移住者が生産する大豆で作った豆腐を
両国友好支援活動として提供いたします。

被災地の皆様の一日も早い復興は全パラグアイ国民の願いです。



パラグアイ

日本

提供者：パラグアイ共和国、イグアス農園、パラグアイ日本人会連合会 (<http://rengoukai.org.py/>)

製造者：チュウノー食品株式会社

お問い合わせ先 (株)ギアリンクス TEL 0573-62-1545 URL <http://www.galinks.jp>

要冷蔵



フィルム：PE,PA
バック：PP

充填

□名称/充填豆腐□原材料名/丸大豆(パラグアイ産)、凝固剤(塩化マグネシウム含有物(にがり))□
内容量/280g□賞味期限/表面記載□保存方法/要冷蔵(1℃~10℃)□製造者/チュウノー食品株式
会社 岐阜県関市栄町5-1-25 製品のお問い合わせ先 TEL 0575-23-4141□使用上の注意/生もので
すから賞味期限迄にお早めにお召し上がり下さい。=遺伝子組み換え大豆は使用しておりません。



4 960426 201138



出典 豆腐100万丁プロジェクト。福島県
旅館組合に5万丁 | 磐梯熱海温泉 紅葉
館きらくや (kirakuya-inn.co.jp)

パラグアイに住む人(日系人)が、
母国・日本を助けるために
避難所に豆腐を送った！



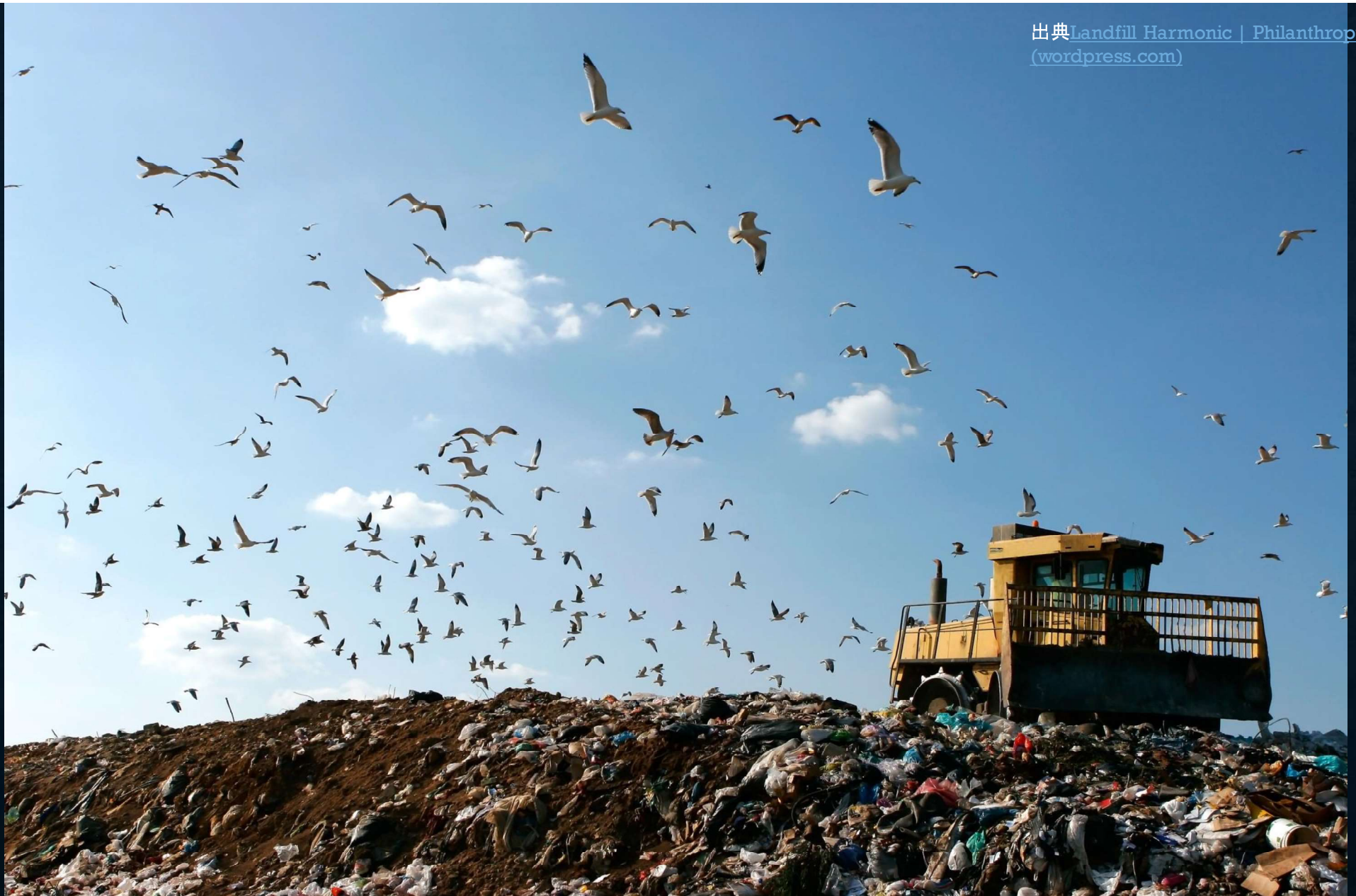
パラグアイのことが
少しわかったかな？



でも、パラグアイにも、
課題があります。

出典 [BBC News - In pictures: Springwatch at Great Blakenham landfill](#)





「カテウラ」という街
にある

ゴミの山！

©藤掛洋子研究室 2016

道路も、こんな状態。

同じくJuvenSurのメンバーである、N氏によると、カテウラではインフラ整備よりも先に、住民の教育環境や文化的素養を育む必要があるという。カテウラでは生活のために働く必要があり、学校に通うことができない子どもたちも多い。また、学校に通うことができる子どもたちでさえも、カテウラではアルコールやドラッグ、暴力に晒される危険が極めて高く、子どもが犯罪に巻き込まれることも少なくない。

これらのことから、カテウラ出身の人々は、首都の中心部などでは、カテウラの出身ということがある種のスティグマとして認識されており、カテウラの出身というだけで犯罪者として扱われることや、疑いをかけられることがあり、就職することにすら困難があるという。

カテウラには、ゴミの山がある。

カテウラの人の中には、そんな
ゴミの山のそばに**住むしかない人**がいる。

そういう人たちは、犯罪に巻き込まれやすい。

(**暴力、薬物**など)

都会の人は、「カテウラ出身」というだけで、
「どうせ暴力しているんでしょ」「犯罪者は、うちの会社には雇わないよ」という(差別)ことがある かも

もし、武蔵野小学校 校区に、
「ゴミの山」があり、

「武蔵野小学校出身？犯罪者でしょ。」
「あなたも薬物をやっているでしょ。うちでは採用しません。」

と、言われたら・・・。



そここへ

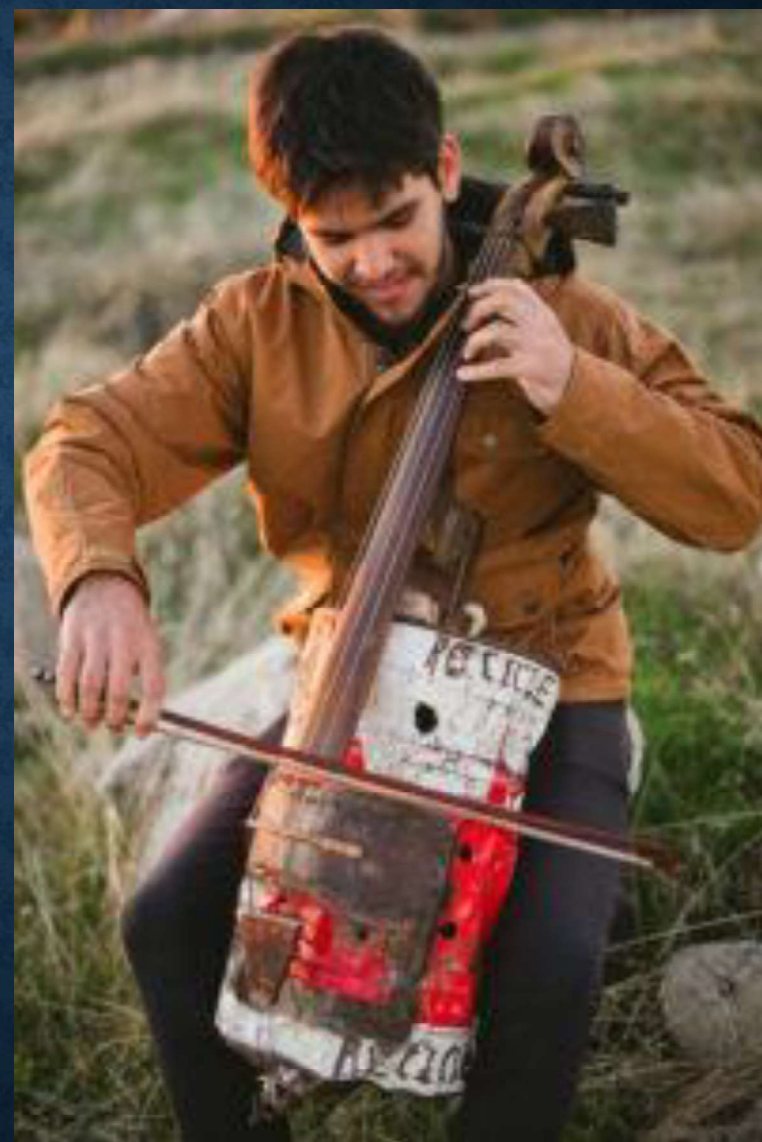
カテウラの若者たちのために、
この人が 動きました！



ファヴィオ・チャベスさん
(カテウラの 元 音楽の先生)

出典: [Landfill Harmonic: The Sound of Garbage – La Voce di New York](#)





以下、51～67スライドは、字幕として放映

TEASER OF THE UPCOMING DOCUMENTARY
FILM "LANDFILL HARMONIC" - YOUTUBE

この動画を、TVで流し、本スライドは、プロジェクターに
映す。TVの英語字幕に合わせて操作。

私の名前は、アダ・マリベル
です。

私は、13歳で、バイオリン
を演奏しています。

僕の名前は、ベビ。
僕は、19歳で、チェロを演
奏しています。

このチェロは、ゴミとして捨てられていた、オイル缶と木からできているんだ。

ペグ（糸巻き）は、肉を柔らかく
する道具でつくってあって、
こっちは、ニヨツキをつくるため
の道具だよ。

こんな音がするよ。

カテウラのような地域は、
バイオリンを持つべき場所で
はない。

事実、バイオリンは、カテウラ
の家1棟より高いのだ。

私たちは、この山積みの中から、バイオリンのケースを見付けたよ。

それが、リサイクル楽器をつくる、きっかけとなったんだ。

カテウラに住む人々は、ゴミ
をリサイクルして、売っている。

私が、こんな楽器をつくるなんて、想像もしなかったよ。

そして、子供たちがリサイク
ル・バイオリンを演奏するの
を見て、とてもうれしく思うよ。

私が、バイオリンの音を聴いていると、そわそわするんだ。

それは、どう説明したらいい
かわからない気持ち。

リサイクル・オーケストラは、
ゴミからつくり出された楽器
を演奏するオーケストラです。

私の人生は、
音楽なしでは
価値がないものになるよ。

ゴミを簡単に捨てちゃダメ
だって実感するでしょう。

そして、同じように「人々」も
捨ててはいけない、と。

カテウラ・
ゴミ山オーケストラ

landfillharmonic

その他参考資料として、以下の映像も活用

60 MINUTES - THE RECYCLERS: FROM TRASH
COMES TRIUMPH - YOUTUBE

チャベスさんは、
どのような思いで
ランドフィルハーモニックを
つくったのかな？



カテウラ音楽団 マルセロ・カセス先生より

やりがい

- ・子供が日に日に一步一步前進していることを確認できたときです。

私たちは、楽器を渡して生徒に教えていますが、楽器というのは道具だと考えています。

「子供たちが変わるための道具」なので、生徒に技術は教えるが、それ以上に力を入れているのが、価値観やしつけなどを伝えることです。

日本の子供たちへ

みなさん、夢があったらそれを叶えるために、すべての条件を備えなければならない、というわけではありません。

少しずつ、一歩ずつまずはふみ出して、そこから夢を叶えていってほしいと思います。

これからみんなが成長するにしたがって、いろんな壁に直面すると思うけど、**乗り越えられない壁**というものはありません。

みんなが抱える悩みより、数十倍の悩みを抱えている人たちもいるので、がんばってください。

夢を叶えるためには、**情熱・努力・忍耐**があれば、必ず叶えられます。

このお話は、 **SDGS**の何番の目標と、関係しているかな？

1 貧困をなくそう



2 飢餓をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を実現しよう



6 安全な水とトイレを世界中に



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



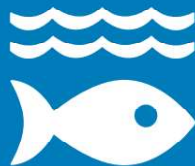
12 つくる責任 つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさも守ろう



16 平和と公正をすべての人に



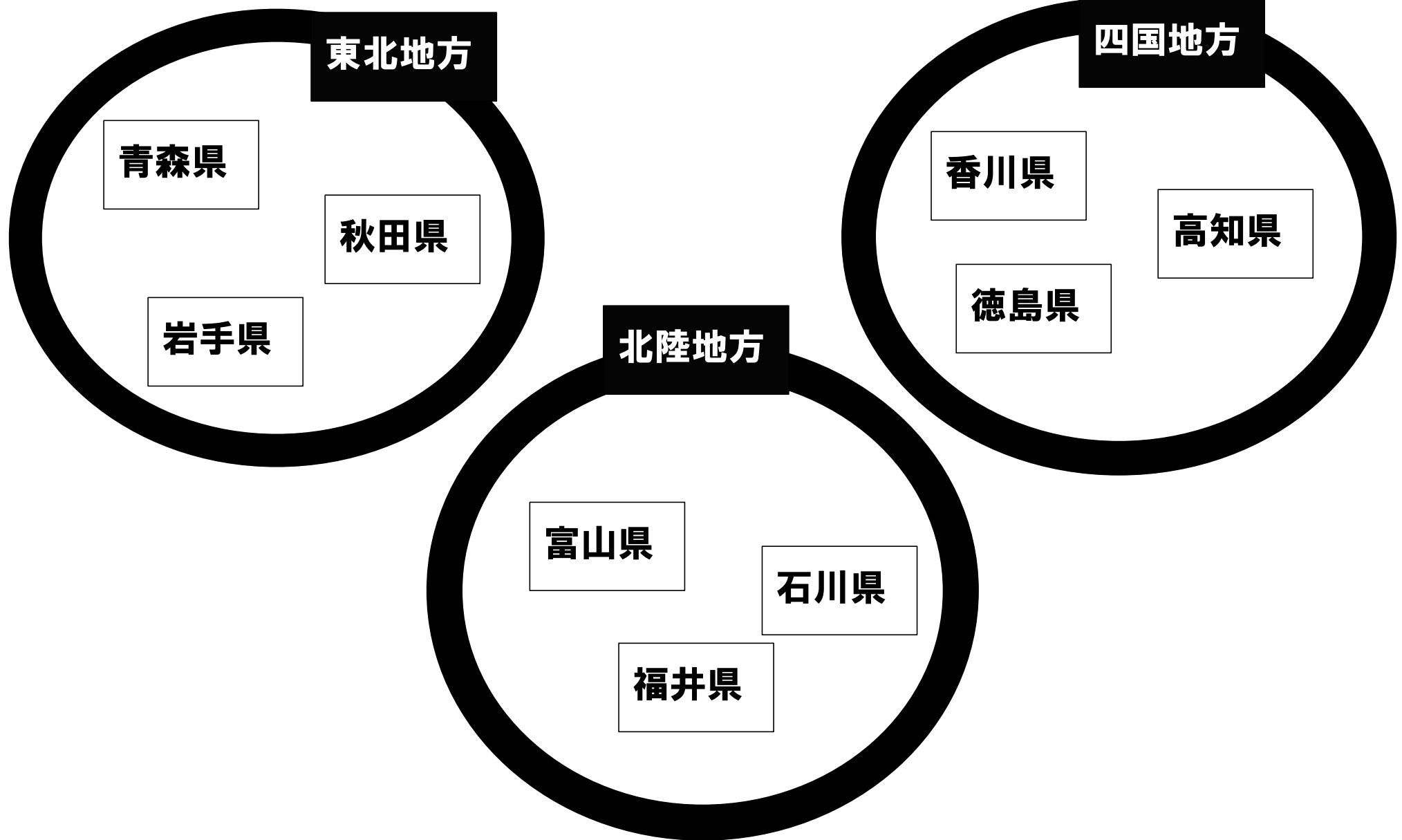
17 パートナーシップで目標を達成しよう



**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

まとめ方の例① ○を使って



まとめ方の例② Y を使って

家庭科

ランチヨンマット

クッション

どんぐりくん

にがおえ

平面作品

かせき

はんが

ケーキ屋さん

立体作品

アルミ缶

まとめ方の例③ X を使って

管楽器

けんハモ

トランペット

リコーダー

けんばん楽器

ピアノ

ギター

げん楽器

バイオリン

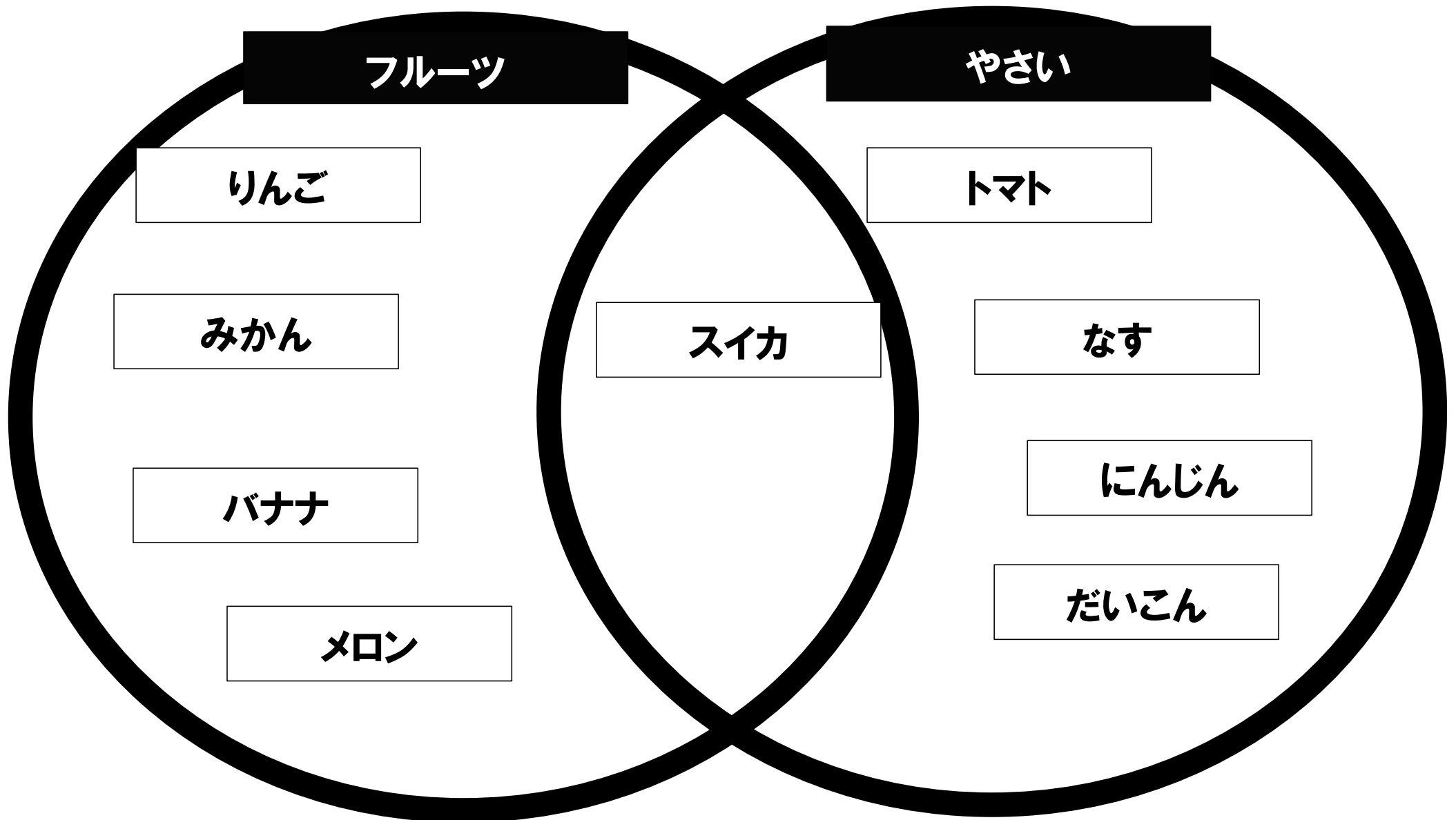
木きん

小太こ

シンバル

打楽器

まとめ方の例④ ベン図



音楽科 ワークシート

4年 () 組 () 番 名前 ()

資料 「こきりこ節」を歌いつぐ 五箇山（ごかやま）の人々の話

他のちいきから、五箇山に、嫁いできた人の話



Q どうして、おどりをおどっているのですか。

「住むならおどる、それが当たり前なんです。おどりは楽しいですよ。全国でここにしかないおどりをおどれるって、誇らしいです。」

ふだんは都会に住んでいて、おまつりの時にもどってくる人の話

Q おどりの 楽しさは何ですか。

「古いスタイルのおどりや、即興でつくったという、うた。古典的で素朴で、「ほんもの」っていうのが、魅力です。」



ほぞん会 会長 岩崎喜平さんの話



Q どうして「こきりこ節」は、復活したんですか。

「それは、「心」です。歌っておどると、「心」と「心」がつながります。難しいことでは、つながることはできません。五箇山は、そういう「心」をつないだいき、ということです。」

Q こきりこ節を、うけついでいくことについて どう思いますか。

「伝統をうけつぐ、となると、まずは師匠に弟子入りするところからですが、「こきりこ節」は、そういうものじゃなく、自由です。やりたい人がやればいいのです。」

私たちが、ちいきにつたわる音楽を学び、続けていくことに、どんなよさがあるのだろうか。